

目的 最近の職業別食生活を把握し、各職業に従事する人達の食生活について、適正な助言を与えると共に栄養士養成校における学内外の栄養指導教育の資料とする。

調査方法 調査対象は公立研究所職員、小中学校職員、銀行員、警察官、バス運転手、ガソリンスタンド従業員、調理師、中小企業従業員、デパート従業員、看護婦、農業、主婦など計1390名について、朝食、昼食、夕食の摂取状況をアンケート方式で調査した。調査時期は昭和47年6月より9月に実施した。

調査結果 1. 朝食内容は米食を主体とした職種として、農業、小中学校職員、警察官、バス運転手などがあり、パン食の多い職種として、デパート従業員、看護婦などがあげられる。なお欠食率の高い職種は看護婦、調理師、ガソリンスタンド従業員などであった。2. 昼食内容については、職場給食を利用してゐる職種として、銀行員、小中学校職員、中小企業従業員、看護婦が多く、弁当持参の職種はバス運転手、研究所職員であり、外食の多い職種は警察官、ガソリンスタンド従業員であった。3. 夕食における外食率は、警察官、看護婦に高かった。4. 朝食、昼食、夕食の食品摂取状態を6つの基礎食品分類法により分類した結果、各職種について、朝食は昼食、夕食に比べて牛乳、海藻、小魚類の摂取は多いが、他の食品群は昼食、夕食の方が多く摂取されていた。職業別では小中学校職員の昼食で、他の職種には見られない充足率であった。なお、朝、昼、夕食とも好成績を示したのは主婦であった。職業による動機状態が朝食、昼食、夕食の摂取状態に影響を与えていると思われる。性別、年齢別にも特徴的な差異が認められた。